

施設長をお引き受けして

施設長 高橋 照 男

岡山大学環境管理施設の充足は、特殊廃水処理施設（昭和50年5月竣工）および有機廃液処理施設（昭和52年3月竣工）の2施設を統合・改称したもので、昭和53年7月になります。

本施設は学長を始め全学的に強力なご支援・ご協力がいただけるという前提のもとづくご要望で、当面工学部がその管理・運営に当ることになったものです。そして当時の工学部長藤田公明教授が施設長として積極的に新しい施設の管理・運営態勢の確立、設備の充実、処理技術の修得による業務の自前化に努め、今日ほぼその運営が日常的になったと言えます。

私達はこの間施設の運営・整備ならびに処理技術の修得・検討等に関わって来ましたが、あおして呉れ、こうして呉れとよく施設長にお願いしたものでした。先生は私達がやりやすいように困難と思われる問題も全学的な了解のもとに解決され実行に移して下さいました。しかし今春3月末で工学部長2期4年の任期を終えられ、この際施設長も辞任したいとのご決意も固いため、あとを受けて私が環境管理施設のおもりを仰せつかることになった次第です。特殊廃水処理施設の導入時頃から施設に関わりを持って来ただけに愛着を抱いておりますが、反面多年の関わりゆえにもうそろそろ卒業させてもらってもと思っておりました矢先のことで、複雑な気持ちが交錯しています。同時に、お引き受けしたことによる任務の重さを充分に感じています。

本学においては、無機系・有機系の環境汚染物質は発生源である排出者自身の責任において、本施設を利用して処理するのが基本的な立場ですから、この姿勢を維持・発展させていきたいと考えています。技術指導員制度の導入はこのため、さらに本学の環境管理に有用な諸施策を進めていきたい。本学の環境保全は瀬戸内海という閉鎖性水域のほぼ中央部に位置し、津島地区は下水道が整備されていないという事情もあり、また急速に環境規制が変わってきたため最近深刻な問題をかかえています。特に水質総量規制への対応は急がれる本学の重要課題といえましょう。

しかし大学における管理・運営は部局単位で行われるのが普通で、諸施設は一般に施設部で設計・建設・施行が進められ、管理・運営は学部等で受け持つことになります。このため全学的に取上げるべきこうした新しい問題に目を向け検討する場に欠け、迅速に対応することは不向きな組織といえるかも知れません。このことは環境管理施設の管理・運営ならびに今後の発展のために考えさせられる大きな課題といえます。

また本施設は単に全学の廃水処理のサービス機関に墮すことなく、大学・研究所等の複雑な環境保全に係わる課題を解決する研究機関としての性格も併せ持つべきであろうと考えております。

本学の環境管理施設が上述のような健全な発展を遂げるよう、より一層全学のご支援・ご鞭撻をお願い致します。